よりよい港区づくりに貢献する

港新聞 MINATO SHIMBUN

第142号（再刊第59号）

発行　港新聞社（代表・飯田吉一）
〒552-0005 大阪市港区田中３-３-３
TEL06-6571-4636 FAX06-6571-4636
（毎月10～15日、港区全域に33,000部を戸別配布）

2011年６月15日（水）

港新聞の発行目的

- まじめに生活し働く区民の立場で
- 真実を伝え、共に考え、提案し
- よりよい港区づくりに貢献する

少しずつでも出来る事を！

東日本大震災　継続支援へ区民奮闘

「現地で支援したお父さんが撮った写真を見て、僕たちも何かしなければと思った」と生徒会で義援金募金活動に取り組む中学生。「戦後の焼け野原から立ち上がった港区民のパワーを被災地へ！」と募金活動を続ける高齢者。今なお深刻な東日本大震災被災地の状況に、世代それぞれの思いを注ぎながら、港区でも継続的な支援活動が行なわれています。そのごく一部を前号に続いて紹介します。

現地写真に響く中学生
戦後復興と重ねる老人
世代それぞれの思いを注ぐ

◆父親の支援活動から

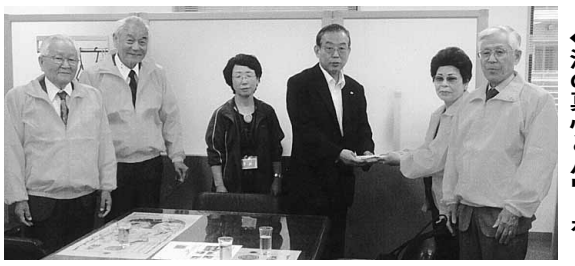
五月二十四～二十六日の朝には港南中学校生徒会の役員六人が募金箱を抱えて校門前に立ち、登校する生徒たちに「義援金お願いしま～す」と呼びかけました。

同校では大震災発生直後の三月十七～二十三日にも募金活動を行ないました（本紙既報、区内の他の小・中学校も実施）が、この日も財布の中からなけなしの小遣い銭を取り出して募金箱に入れる生徒が何人もいました。

生徒会会長の北島広夢（ひろむ）君（三年生）は「僕のお父さんは仕事で一週間、宮城県石巻市へ行って支援活動を行ない、そこで撮った写真を廊下に掲示し、東日本大震災への生徒の関心を促しています。掲示には「東日本にYELL（エール）を！」のタイトルの下、①瓦礫（がれき）の原と化した市街地②鉄骨だけとなった建物③土砂にうずもれた住居④自衛隊による救援活動⑤熊本から支援に来た車⑥「頑張ろう！石巻」と大書された看板―などの写真二十枚が貼られていました。

▲保護者が撮った被災地写真を見て「報道が少なくなっても私たちは継続的に！」と支援に取り組む港南中学校生徒＝写真は5月25日朝、生徒会による正門前での募金活動

◆港の真心とパワーを



「港区民のパワーを、真心を被災地へ！」と義援金を託す港区老連の原田壽会長（右から2人目）ら＝5月19日、大老連事務局で

港区老人クラブ連合会は、四月二日から続けてきた義援金募金活動の一区切りとして五月十九日、これまでに集まった義援金百六十一万四千七百六十円（街頭募金分百二十二万八千八百七十五円＋会員分三十八万五千八百八十五円）を大阪市老人クラブ連合会（大老連）に託しました。大老連は全国老人クラブ連合会を通じて被災地へ届けました。

大老連事務局（浪速区）に義援金を届けた原田壽（しょうじゅ）会長と小西昭人（しょうと）、藤家順（ふじいえすなお）、岡田俊夫の各副会長は、「港区の真心を、パワーを、被災地の方々へ届けようと頑張って参りましたが、区民の熱いご支援でたくさんの義援金を送ることが出来、嬉しく思っています」と語っていました。

【2面につづく】

◆父親の支援活動から

五月二十四～二十六日の朝には港南中学校生徒会の役員六人が募金箱を抱えて校門前に立ち、登校する生徒たちに「義援金お願いしま～す」と呼びかけました。

同校では大震災発生直後の三月十七～二十三日にも募金活動を行ないました（本紙既報、区内の他の小・中学校も実施）が、この日も財布の中からなけなしの小遣い銭を取り出して募金箱に入れる生徒が何人もいました。

生徒会会長の北島広夢君（三年生）は「僕のお父さんは仕事で一週間、宮城県石巻市へ行って支援活動を行ない、そこで撮った写真を送ってくれました。それを見て、僕たちも何か出来る事をやらなければと思い、生徒会で話し合い、先生とも相談して募金活動に取り組むことを決めました。生徒会では三月にも取り組みましたが、日が経つにつれて段々と震災報道も少なくなり、皆の関心も薄れてきたので、『だからこそよけいやらなければ！』と思いました。現地の色々な状況が気になりますが、特に原発災害が心配です。これからも皆と相談しながら、継続的に支援活動に取り組みたいと話しています」と話していました。

同校の担当教諭によると、集まった義援金は三日間で五万百七十円になったということでした。

同校生徒会では、北島会長のお父さんから送られてきた被災地・石巻市の写真大書された看板―などの写真二十枚が貼られていました。

◆港の真心とパワーを

港区老人クラブ連合会は、四月二日から続けてきた義援金募金活動の一区切りとして五月十九日、これまでに集まった義援金百六十一万四千七百六十円（街頭募金分百二十二万八千八百七十五円＋会員分三十八万五千八百八十五円）を大阪市老人クラブ連合会（大老連）に託しました。大老連は全国老人クラブ連合会を通じて被災地へ届けました。

大老連事務局（浪速区）に義援金を届けた原田壽（しょうじゅ）会長と小西昭人（しょうと）、藤家順（ふじいえすなお）、岡田俊夫の各副会長は、「港区の真心を、パワーを、被災地の方々へ届けようと頑張って参りましたが、区民の熱いご支援でたくさんの義援金を送ることが出来、嬉しく思っています」と語っていました。

【2面につづく】

本紙の存続へ カンパの訴え

ご支援に心より感謝します。1997年の創刊以来、「よりよい港区づくりに貢献する」を目的に発行を続けてきましたが、昨今の不況で広告収入が減少し、経費を極力削減するなど鋭意努力していますが、厳しい運営状況にあります。存続へ読者の皆様のカンパを引き続き訴えるものです。

振込先：近畿大阪銀行九条支店（普）１４２３５９３港新聞

次号は７月10～15日戸別配布

港新聞は港図書館、港区民センター、港区老人福祉センター、弁天町市民学習センター、コンビニ、銭湯、ひまわり、港近隣センター等にも設置しています。

紙資源節約と環境保全のため名前のないポストには配布していません。ご了承下さい。

あさやけ

「港新聞の灯（ひ）を消さないため、わずかですが振り込んでおきました」―前号から掲載の「本紙存続へカンパの訴え」に対する反応の数々。取材現場でのカンパ、難病患者からの現金郵送、広告契約での応援、更には運営形態への親身の提言も。勿論（もちろん）、これまで通り熱心に読み、投書や情報提供で支えて下さる無数の読者にも感謝、感謝です▼とはいえ、不景気に加えて震災募金で財布も軽くなりがちな中、そんな貧者（失礼！）の一灯（いっとう）に甘えてばかりもおれません。「こんな時こそ」と幾つかの支援制度も探ってみました▼最初はどの窓口も「それなら廃業しかないのでは…」。が、紙面を見てもらううち「地域貢献」という発行目的への理解、そして一定の援助も得られそうな雰囲気に―。真摯（しんし）な対応にこちらも胸が熱くなりました▼不況下で苦しむ自営業者ら全ての区民を代表してのこの挑戦。結果はどうあれ、共に紙面を作ってきた読者の熱き心の後押しを感じています。

石綿の不安がある人は継続的に肺癌検診 結核健診
9月16日(金) AM9:30～10:30 肺癌検診
港区保健福祉センターで
X線撮影無料・喀痰検査400円＜要予約・40歳以上＞
7/1(金)PM2:30～4:00同センターで無料結核健診
詳しくは☎6576-9882港区保健福祉センターへ

住まいの防犯レベル高めよう
①ワンドア・ツーロックは常識
②ピッキングに強いカギに交換
③窓にも補助錠の取り付けを
PHS・携帯OK 0120-70-5569
(アーイアート)港カギ防犯センター
安心・安全をご提供します
港区港晴1-4-8
（港晴小学校並び）
☆大阪府錠前技術者防犯協力会会員
☆港防犯協会会員　☆防犯設備士第00-6738号

入所児募集（0、1、2才）
赤ちゃん遊んでます！
～みんなキラキラしています～
基準保育
9～16時(8～18時も可)
保育料
収入や家庭事情により決定（市から補助あり）
♪ヴァイオリンのおけいこしませんか♪
♪ピアノおしえます（中学生以上）♪
大阪市承認 人見ベビーセンター
☎6574-3423（東條）港区磯路2-10-1
電話はPM4:30～

募集 歯科衛生士（常勤・パート）
委細面談、まずはお電話下さい
素敵な笑顔は健康な口腔から
むし歯予防　インプラント
歯周病予防　ホワイトニング
歯並び矯正　鎮静法etc.
とみもと歯科
http://www.tomimoto-implant.com/
☎6572-1182 港区港晴4-1-10 辻産業第6ビル1F

親の歴史 文章にまとめ 贈り物に
お話をききとり、冊子にしてお渡しします。
400字（原稿用紙1枚）で千円が標準料金です。
極貧の夫に嫁いで苦労を共にしたものの、夫は無理がたたって40代で他界。その後、女手一つで４人の子を育て上げた母親の半生を、日記などを元に一本の歴史にしてもらいました。93歳の母は今、その冊子を宝物のように、繰り返し眺めています。（波除・60代男性）
田中3-3-3 飯田編集事務所 ☎6571-4636